

平成 29 年 9 月 04 日
関西支部長 高垣俊壽
作 成 前田一也

開催日時：平成 29 年 8 月 31 日（木）

《研究会》18：00～19：20 《懇親会》19：20～20：30

開催場所：大阪府門真市 パナソニック企業年金基金「松心会館」

《研究会》2F 研修室「4」、《懇親会》大広間

出席者： 合計 29 名

◆研究会：高垣支部長より挨拶された。

1) 日報への記事の掲載については、来年から応募していく。皆様からの応募をお待ち致しております。

2) 12 月の研究会紹介と来年 2 月 7 日に第 4 回技術士受験セミナーの実施を決定した。

演題：「国際物流におけるコスト削減の実例」について

講師：大西 康晴様（公社）日本ロジスティクスシステム協会

1. 国際化による物流の影響

少子高齢化の影響また、安い労働力ならびに豊かな市場を求め新興国への進出が目立つ。そのため、国内における物の流れも「国内工場→物流センター→市場」という流れから、「海外生産→日本港→物流センター→市場」などに変化が進み、国内の運送会社も国際化の波にさらされている。

2. フォワーダーとは

自らは輸送手段を持たず、船舶・航空機・トラック・などを利用し、荷主と直接契約して貨物輸送を行う事業者のことであり、物流をトータルコーディネートする付加価値の高いサービスを提供することが求められる。日系企業では、日本通運、郵船ロジスティクス、近鉄エクスプレスが大手 3 社と呼ばれている。

3. 国際物流のコスト削減

1) バイヤーズコンソリデーション

物流費のコストが最近増加傾向に有る（製品単価の 4.3%）各サプライヤーの貨物を 1 ケ所に集荷しコンテナの積載量を増やす事がコスト削減に繋がる。

2) 物流園区などのエリアの活用

2004 年 4 月上海外高橋保税區設置専門的に現代国際物流業を發展させる税関特殊監督管理区域を指す物流園区のメリットがある。

貨物の入区＝海外企業への輸出する直ちに輸出増値税還付申請必要証明が税関より発行。

海外名義で商品を保税蔵置できる。保税蔵置期間に制限がなく、長期間保管できる。

中国委託加工生産企業で製造→半完成品を別の委託加工生産企業に転売が簡素化できる。

輸出入を物流園区にて一括処理できる→輸送経費の削減、輸送リスクの軽減が実現できる。

3) コンテナラウンドユース

輸出入コンテナを荷卸し後、輸出貨物に使用→2 コンテナのウエイ利用。

関係各所の調整が難しいのが、難点である。

CO2 排出量削減：最大で約 3 割の削減効果。輸送コスト：最大で約 3 割の削減効果あり。

4) 包装モジュールおよびコンテナリゼーションといった手法について、

積載効率の向上の為、包装サイズの標準化とコンテナサイズのサイズをよく調査して効率化を図る。

コスト削減のポイントとして、荷主は国際物流を付帯業務として見るのではなく、フォワーダーと連携をとりながら、どう効率化を進めるかを考える必要がある。

最後に、発表後も「ヒアリ」の質疑応答もあり、理解を深めることが出来ました。

◆懇親会：

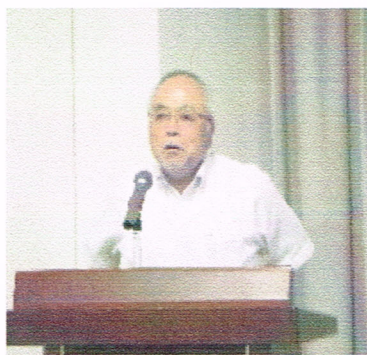
8 月 31 日（木）19:20～20:30 出席者：28 名 松心会館 大広間

富士支部相談役の乾杯の音頭で開会し、津田会員の中締めで閉会した。

◆第 136 回研究会予定

2017 年 10 月 26 日（木）：松心会館 2F「3」

講師：太田本部理事より「食品メーカーの容器開発とその背景について」お話を頂きます。



挨拶の高垣支部長



発表の大西様



新人（左、松田様、美濃部様、志村様、平田様）



受講風景（１）



受講風景（２）



乾杯の音頭をとる
富士支部相談役



懇親会風景



中締めをする
津田様